

**【令和8年度 実規模実証採択技術の概要】****<テーマ：下水道管路メンテナンスの高度化・メンテナビリティの向上につながる技術>**

- ①事業名：No Entry 実現に向けた概略点検・詳細点検併用型ドローン×AI 実証事業  
実施者：株式会社 Liberaware、管清工業株式会社、株式会社日水コン、アキュイティー株式会社、千葉市共同研究体  
概要：過酷な下水道管環境において、飛行型ドローンを活用した無人点検および AI 診断技術の高度化を実証し、調査困難区間における安全性向上、省人化、点検品質の高度化を図る。
- ②事業名：下水道管路におけるフロート式点検ロボットの実証事業  
実施者：日本工営株式会社、株式会社ウオールナット、埼玉県共同研究体  
概要：農業水利施設・電力土木分野で水路トンネル点検の実績が多数あるフロート式点検ロボットをベースに、下水道管路点検の省力化・高度化につながる機能を備える装置へ改良し、下水道管路特有の環境条件において機能を発揮することを実証する。
- ③事業名：予防保全を実現する下水道次世代 DX モデル実証事業  
実施者：埼玉県・NTT 東日本株式会社・株式会社 NTeDroneTechnology・株式会社ジャパンインフラ・ウェイマーク・NTT インフラネット株式会社・国際航業株式会社共同研究体  
概要：簡便なドローン・カメラによる現地点検手法の確立、AI や 3D 点群を用いた損傷・変状検出から診断の実現、取得データのマッピング、デジタル台帳管理までの、一連の点検プロセス効率化を実フィールドで運用実証する。
- ④事業名：天井走行ロボットを用いた下水道管路背面の初期空洞に対する無人点検技術の実証  
実施者：前田建設工業、三井住友建設、東京大学共同研究体  
概要：①地上遠隔での完全無人点検の実証、②飽和地盤における空洞検知指標の確立、③複数センサー併用による誤検知排除と修繕判断の高度化を行い、取得データの 3D 可視化を含む維持管理の有効性を実地で検証する。

**<テーマ：2050 年カーボンニュートラルの実現に資する省エネや創エネなどの技術>**

- ①事業名：脱炭素化に資する MABR 併用型活性汚泥法  
実施者：三機工業（株）・日本下水道事業団・横浜市共同研究体  
概要：標準活性汚泥法に MABR を組込むことによる、省エネ効果、N2O 発生抑制効果等を実証する。

※「事業名」、「概要」は各実施者からの提案によるもの。